

子ども達から教えられた事。

田丸 あけみ

毎日、子ども達はアトムで、心も体もめいっばい動かしながら生活しています。

大人は、子どもが自ら発達していく過程を見守り、時には手を差し伸べながら温かく見守る役割だと思っています。

私の新人の頃を思い返すと、0歳児では首が据わり、寝返りし、ずりばいからハイハイそして、歩行へと大人が教えていないのに、自ら発達していく0歳児の力への驚き。

1歳児では今まで、泣いて表現するだけだった子どもが、嫌な気持ちや、友達と関わりたい思いを「噛む、引っ掻く」という姿で現しだしました。当時の私は、発達過程と理解しながらも、本当に毎日へとへとになる位、気を張り、緊張しながら保育をしていました。それでも子ども達は、言葉にならない気持ちを「噛む、引っ掻く」という行動で表現しつづけていました。しかし、その段階を経ると少しずつ、人間の道具である“言葉”の獲得が進み、使い方を覚え言葉で自分の気持ちを伝えるようになりだし「噛む、引っ掻く」という姿がぐんと減りました。そして、2、3、4、5歳児と表現方法を変化させ、気持ちも葛藤させながら、言葉で自分の思いを相手に伝えるのが一番伝わるという事を経験を通して学んでいきます。新人の私は、学校で教科書を通して学んできたのですが、子ども達と過ごす中で「これが発達していくという事か…」と実感として子ども達に教えてもらえたと同時に、子どもは自分の気持ちを、幼くてもしっかり持っているんだと感動したのを覚えています。

そして、私はその経験から今も、子ども達が人として成長していく過程で大切にしたい事は何か？そこをいつも頭におきながら目の前の子ども達と過ごしています。人間同士が、共に生きていく為に必要な力を育むためには、幼い頃からのトラブルは必要不可欠です。そして、そのトラブルの中から学んでいく事はたくさんあります。

しかし、一方で引っ掻き傷や噛む、噛まれたというケガに繋がってしまうこともあります。保育士は、子どもの発達を見守りながらも、防げるケガは防ぎたいと思っていますが、ケガが続くと職員の中には、悩みが深くなる人もいます。私も、発達段階だとは理解しながらも、ケガが続いたり、保護者の複雑な声を聞くと正直、気持ちが揺れ動きます。

私たちは日々、保育環境はどうか？工夫出来る事はないか？など常に話し合いを重ねながら、子ども達が安心して気持ちを表現し、自ら発達していける保育園でありたいと思っています。

今月号は「職員のつぶやきコーナー」を作ってみました。職員がそれぞれ日々感じている事や、気持ちが書かれてあります。文字（文章）だけでは、伝えきれないこともあるので、聞きたいことがある人は、直接、職員とやりとりしてほしいと思っています。大人同士は、一緒に子どもを育てる仲間です。互いを表現しあう事は大切なやりとりだと感じています。是非、よろしくおねがいします。

6月27日（土）に「第一回祖父母交流会」が行われました。当日の祖父母の参加人数は、70名でした。

お忙しい中、たくさんの方に参加して頂きました。ありがとうございました。

そして、お父さんやお母さんがアトムまで、祖父母の方を送迎している姿がたくさんありました。重ねてありがとうございました。

祖父母の方の中には、九州や四国など遠方から来ていただいた方もおられました。祖父母の方が目を細めて孫や他の子ども達の姿を見ていました。交流会の時間は、保育士から保育園の様子を話し、祖父母の方からは、今日の感想や孫の事についての話が中心でした。「いつも祖父母交流会を楽しみにしている」「夫婦共に共働きだから少しでも助けてあげたいと思っている」「娘が孫に叱っている姿が自分の子育て時代にそっくりなので、反省している」「孫を保育園に預けるのを不憫に思っていたが、楽しく遊んでいると聞き安心した」など、様々な話を聞かせていただきました。次回も、今回の交流会に更にプラスして企画を考えていきたいと思っています。